

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和4年度 第2回人材確保・育成部会 会議録

日時 令和4年8月25日(木) 10:00~11:40

場所 乙訓総合庁舎第2会議室

出席者 9名

乙訓障がい者基幹相談支援センター、向日市社協障がい者地域生活支援センター、こらぼねっと相談支援センター、大山崎町社会福祉協議会、第2乙訓ひまわり園、障がい福祉センターあらぐさ、障害者支援施設晨光苑、乙訓の里、大山崎町福祉課

欠席者 5名

長岡京市商工会、乙訓保健所福祉課、向日市障がい者支援課(2名)、長岡京市障がい福祉課、

事務局 2名

傍聴者 3名

配布資料 ・次第

- ・チラシと配布状況
- ・インターンシップ計画(2022年度)
- ・新任職員連続講座
- ・意見交換会(案)
- ・就職フェアちらし

会議概要

1 チラシ・インターンシップ計画について

部会長 ・第2回の部会を始める。チラシについて事務局から説明をお願いする。

事務局 ・若い方は電話で連絡をしない方が多いようなので、チラシ裏面にGoogleフォームで問い合わせができるようにした。希望する連絡方法が基幹相談支援センターに入るの、希望者があつた事業所には基幹から連絡することになる。

・チラシの配布状況について資料を見ながら説明。

・見学・体験計画について資料を見ながら説明。「インターンシップ内容」と表記してしまっているが、これは「見学・体験内容」と訂正したい。

部会長 ・前回の部会で、「インターンシップ」という言葉は定義的に使いにくいという意見が出たので変更をしたい。

・質問等あるだろうか。チラシを実際に配布したところはあるだろうか。今のところはないようだ。当面は各事業所で印刷して活用してもらい、9月25日にある南部の就職フェアに出展される事業所はそこでも配布願いたい。

・各事業所でつながりのある大学への周知活動や、それぞれの法人のホームページでの掲載をお願いしたい。

・反応はあるか。

事務局 ・京都府福祉人材研修センターからすぐに連絡があって、体験したい方があったそうだ。他の圏域の事業所に連絡をされたが、その方は見学程度に考えていたのに求人の方に話を持っていかれて戸惑われたそうだ。乙訓圏域では、縁をつなぐソフトな対応をお願いしたい。

・チラシの配布状況にあるように、京都保育専門学院から、直接学生に対して、例えば就職ガイダンスのような形で話をしてもらおうのがよいという提案があった。これについて協議していただきたい。

部会長 ・対応はそれぞれで難しいが、まずはこの業界のことを知ってもらうことに重きをおいた体験として、働くのは次の段階において進めていきたい。

・「ちらし配布の状況」の資料にある京都保専からの提案についてどうだろうか。この部会の中から就職ガイダンスのような形でいくということについて。

委員 ・合同説明会への参加はあるがこのような経験はない。就職につなげていいものなのか。

事務局 ・京都保専としては、卒業すれば就職なので選択肢を増やす意味合いとアルバイトとして体験できる方法も考えられるとのことだった。

部会長 ・自分の事業所に来てもらうための話はこれまでもしてきているが、そうではなく、職場としての乙訓圏域の障がい福祉の魅力を発信することになる。

委員 ・乙訓の事業所は連携していて、アルバイトでまず入ってもらって就職につなげていくという感じだろうか。

部会長 ・学生には、よりリアルに、給料の話などの関心もあると思う。

委員 ・給料については質問されれば答えてもいいのだろうか。低回生で業界研究に来ている人にはあまりよくないと聞いたことがある。

部会長 ・見学に来てもらって、面接、試験という採用によせてはだめだというぐらいだった。

委員 ・給料が低いイメージがあるがそうでもないのでもそこを含めた説明ができるといいと思う。

部会長 ・社協では魅力発信等しているだろうか。

・この部会として前向きに取り組むという方向でいいだろうか。

委員 ・部会としてこの取組を京都保専にしゃべりに行くということか。

事務局 ・自分から情報を得るといより、学校の授業として話に来てもらう方が今の学生は動くらしい。チラシの中身をパワーポイントなどにして話をするか。

委員 ・自分の事業所に来てほしいということは隠して話をするのか。自立支援協議会から来ましたということになるのか。

部会長 ・自分の事業所の紹介はもちろん入ると思う。

事務局 ・人材の部会委員として説明していただいて、気になる方は個別に質問を受け付けるか。どのように組み立てるか。まずは企画をたてて学校と話をしないと進まない。みなさんとしてはどこま

でしょうか。

部会長 ・大学によっては、学内説明会を授業の中でやっているところもある。

副部会長 ・チラシに掲載されている事業所の中で行けるところが行くか。

委員 ・私の事業所では、今、心理士の実習生7名を受け入れている。5名がスクールカウンセラー、2名が高齢者の方を希望している。学生の選択肢が狭まっている。自分の体験したことで自分の将来を考えている。地域連携や他の事業に関しても説明したが2名しかメモを取っていなかった。受け身だと思った。学生へのアピールが難しいことを実習生対応をして感じた。就職ガイダンスも何を目的として話をするかで反応が違おうだろう。広い視野を持ってもらえる話をしないと前に進まないと思う。

部会長 ・教授とまた打ち合わせをさせていただきたい。どういうものが効果的かを探りたい。

事務局 ・いつ頃がいいだろうか。行ける人でいきたい。

部会長 ・コロナが収まってからか。社会的におさまるかより事業所がおさまるのはいつかな。GMと教授との都合で、授業でやるとなると後期に入って10月以降か。

事務局 ・チラシの事務局は基幹になっているので、GMというより基幹に入ってもらってやりたい。

部会長 ・そのように進めたい。チラシの周知をよろしく願いたい。

2 新任職員連続講座について

副部会長 ・全体で42名の参加。対面とオンラインで受講希望をとっているが、対面が10名ほどなのでこのまま行う予定である。

・講師はこちらに来ていただく予定だが、コロナの感染状況により柔軟に対応したい。

部会長 ・コロナの状況によるのでどれだけ職員が出せるかわからない。

副部会長 ・対面希望の方にもURLは送る予定にしている。

部会長 ・内容は講師に1時間程度講演、残り30分は簡単なグループワークで自己紹介、学びの共有をしていただく。オンラインでうまくできるか不安ではあるがそのような形を考えている。

・オンデマンド配信についても実施する方向で検討している。ただ、2回目の教育委員会の録画はNGとなっている。1・3回目については、Youtubeで終わってから限定配信をする。

・当日の進行は副部会長にお願いしている。

3 人材育成に携わる職員の意見交換会（案）について

事務局 ・「意見交換会」となっているが、「交流会」の方がいいと思っている。

・資料を見ながら説明。

部会長 ・職員育成を担当している方の横のつながりをつくりたいと考えてきてやっとな実現となる。

・案なので、みなさんのご意見やアイデアをいただきたい。

委員 ・研修紹介が1法人5分というのが短いと思う。さらっと終わるともったいない。取組が初めてなので事業所間で共有できるのがよい。

・いきなり法人共同での研修を考えるのはハードルが高いように思う。

・まずは他法人の取組を知ってからでないと次の展開は見えにくい。

委員 ・グループディスカッションでは、テーマを決めてから方向性があれば進めやすいと思う。より

具体的で、ある程度共通性をもったものがよい。

副部会長・各法人で研修担当をどう定めているか、上司がどの程度協力しているか、研修マニュアルにそって実施しているかなど、それぞれだと思うのでまず確認することが大事だと思う。バラバラの土壌で話をしてもぴんとこないと思う。交流会参加申込時にマニュアルがあるかなど聞いておくのもよい。

委員 ・研修紹介にもっと時間をさいた方が有意義だと思う。

委員 ・もっとざっくばらんな形をイメージしている。この会議室ではなく場所をかえてやってみてはどうか。グループワークをメインにしてはどうか。

・研修をやっている事業所があるなか、どこもやってないイメージを対外的に持たれてしまう。研修体制の品評会になるとつらいのでお互いが参考にできる内容がいい。

委員 ・じっくりとどこかの事業所の取組を聞いてから、意見交流をするのはどうか。

委員 ・自身の事業所の現状がわかって帰ることにはなるが、ポジティブになれるような企画がよい。

委員 ・全体の底上げにつながる。

委員 ・場所に関しては、大山崎町ふるさとセンターもあるが、駐車場がない。

部会長 ・場所はまずはここでやってみて、また今後考えたい。

・代表法人に事例を提供していただいて、それについてディスカッションするというのでいいだろうか。そうしましょう。

委員 ・人材育成の対象は、新任か、中堅か。それぞれに特化した形で担当が実施している。

部会長 ・どちらも含めていいと思う。人材育成は誰が担当しているのだろうか。

委員 ・私が参加しようと思っている。

委員 ・毎月実施する法人研修は各部署もちまわりでやっている。全体をまとめる者はいる。

委員 ・新人が3、4年入っていないので研修を実施していない法人になる。現場ごとの研修はある。アルバイトも含めて30人に満たない事業所なので研修に力をいれる職員をとりにくい。大きな法人の研修方法を教えてほしい。小さい規模の事業所が困っていると思う。法人枠がない方が必要としているのではないか。そういった事業所が参加できる方がうれしい。

委員 ・研修方針などがあってもなかなか実行継続が難しい。

事務局 ・「てくてく」には、研修内容の紹介をお願いしている。

・参加人数はおおむね20名として、ここにあげている対象者は11事業所である。人材育成に関心のある小規模な事業所にも参加いただきたい。乙障協で希望者を募集してもらおうと思う。

部会長 ・どの法人に取組発表をお願いするか。仮に3パターンで、社協、社会福祉法人、NPO法人として、それぞれに分かれたグループになって交流をするか。グループにすると活発な意見が言えるが、他のグループの意見が共有できないのが残念だと思う。

事務局 ・全体でやると慣れていない人は質問しにくくないか。

委員 ・各グループに部会からファシリテーターに入って、まとめたことを最後に発表し共有する。グループをどのようにわけるか。

事務局 ・全体か、グループか、二択になるので決めていただきたい。

委員 ・参加者が新任なら発言も難しいが、研修に携わるぐらいの人なら、全体で発言できるのではないか。全体の方が深まると思う。

事務局 ・挙手の多数決で決めたい。

※挙手をとる。全体の方に多数手があがる。

部会長 ・全体で交流していく。

委員 ・共有できるのが一番だと思うが、初対面の方の中で今のようにしゃべれるか少し不安に思っ
て迷った。反対ではない。

部会長 ・コの字型に着席して皆さんの顔が見えるように、発言しやすい雰囲気づくりに務めたい。

事務局 ・当日の内容としては、はじめの挨拶、目的説明を部会長にさせていただき、簡単な自己紹介の後、
研修紹介はいくつぐらいがいいか。3つにしましょうか。まずはこの部会委員の所属にお願いす
るのがいいのではないか。

部会長 ・先ほどの話からすると小規模事業所にお願いするのはどうか。

事務局 ・部会委員ではないが NPO 法人の「てくてく」に依頼したい。

・社会福祉法人からはどこにするか。乙訓圏域には大きく3つあるがそのどこかで。

部会長 ・乙訓福祉会の介護の研修に参加させていただいたことがあり、衝撃的でレベルが高くとても
よかった。

委員 ・外部から講師を招いている。今年度も12月にあるので案内をしましょうか。

委員 ・私の事業所でも独自に研修しているが、私もそのびっくりするような研修を受けてみたい。

事務局 ・乙訓福祉会にお願いできないだろうか。介護研修を中心に全体の話をもとめてもらえないか。

委員 ・ほぼ実践だが映像などもあるのでその形でうけることにしたい。

部会長 ・社協はどのような研修をしているのだろうか。

副部会長 ・法人としての研修は1回で、あとは各事業所で実施したり、外部の研修を受けることになる。
職員の7割が非常勤である。

部会長 ・ではその様子をお話していただきたいと思う。

一同 ・拍手

事務局 ・NPO 法人から「てくてく」、社会福祉法人から「乙訓福祉会」、社協から「向日市社会福祉協
議会」の3本だてでお願いしたい。発表時間はどれぐらいがいいか。

部会長 ・話題提供なので15分ぐらいがいい。3法人が順番に発表して45分、その後グループディス
カッションがいいように思う。

事務局 ・発表法人は、パワーポイントで資料を作成していただいて事務局に送ってほしい。

・「人材育成に携わる圏域法人職員の交流会」の案内は本日の協議内容を反映させて作成し直す。

・各法人からひとりの参加に絞っていただいて、この第2会議室は30名まで入室できるが。

委員 ・30名になると交流しづらくなる。

事務局 ・参加希望が20名になると締め切り日を待たずに締め切ることにしている。

・研修担当者20名がテーブルを囲むということで、部会委員は数に入れないことにしたい。

・10月には発出して募集したい。

部会長 ・交流会の案内はこちらで作ってメールをするので内容について、承認いただきたい。

委員 ・乙障協から募集することになっているが、現在、書面で総会をすることになっている。
メールで案内を送付することになると思う。

- 部会長 ・集まることがあれば口頭で説明したかったが、厳しい状況のようだ。
事務局 ・乙障協に加入されていない事業所には事務局から案内したい。

4 その他

乙訓で働きたい人の就労フェアについて

- 部会長 ・来年2月に開催予定。
事務局 ・ブースに座るのは直接求人をする事業所で、自立支援協議会からは、会場の一角をお借りして案内をすることになる。
部会長 ・また近くなってから詳細をお知らせする。

次回 10月27日(木) 10:00から